

東京家政大・家政 ○神野節子・菅原美子・林崎洋子

### 目的

市販消毒液(エタノール他5種類)を用い、細菌及び真菌汚染布などの殺菌効果を、各々の検液の濃度と作用時間との関係で求め、知見を得たので報告する。

### 実験方法

1). 汚染布の作製: 特製綿ブロードを25cmに調製して滅菌し、細菌は普通寒天平板, 真菌は麦芽汁寒天平板に5枚ずつ接布し、細菌は *E. coli* 他4種, 真菌は *Asp. niger* 他4種 計10種の菌液をそれぞれ調製して、平板上の試布に1mlずつ滴下し、細菌は30°C, 24時間, 真菌は25°C, 7日培養した。

2). 消毒液の調整と作用時間; 試験液毎に数種類の濃度液を作製、汚染布への作用時間は2.5, 5, 10分とし、この作用時間で無効果のものについては、処理時間を延長した。

3) 殺菌効果の判定; 汚染布に対する検液の殺菌効果は、処理後の試布を、殺菌濾紙上で乾燥後、平板培地上に接布して、上記の通り培養後、培地上の菌の有無で判定した。

### 結果

第一報で報告した細菌に比較し、真菌は、細菌と同じ濃度及び作用時間処理消毒液では、一般に死滅しなかつた。*A. niger* 他4種混合汚染布は、クロルヘキシジン0.5%エタノール液及び水液ならびに、市販塩素系漂白液10%液の30分処理で殺菌された。また、6種消毒液中では、エタノール90~70%液、塩化ベンゼトニウム 1.0%液 20~30分処理は有効であった。